

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：共同意思決定（SDM）、集中治療室、看護師参画

重症患者・家族と医療チームの共同意思決定

看護学部 看護学科 准教授

稲垣 範子 INAGAKI Noriko

研究の内容

□ 概要

治療の意思決定といえば、外来の診察室で医師から診断を告げられて治療の選択肢を提示され、患者本人が十分に検討したうえで意思決定する、という流れを想像される場合が多いと思います。

しかし、予測していない急激な病状悪化などですぐに初期治療が行われ、集中治療室での治療が開始されている重症患者の場合、ベッドの上で機械に囲まれた状態で目を覚ますことになります。

そのような状態の患者本人に、医療チームはどのように関わり、どのように治療を決めていくべきなのかをテーマに研究を続けています。

□ 主な成果

下記の研究で特に看護師に焦点をあてて探求しています。

✓ 2018年度基盤研究C

「生命を脅かす疾患に直面した患者のSDMを支える
多職種協働意思決定支援モデルの構築」

✓ 2023年度基盤研究C（継続中）

「SDMでの重症心不全患者と看護師の相互作用を
基盤とした状況特定理論の構築」



重症患者とどのように決めていくのか

産学連携・社会連携へのアピールポイント

集中治療・クリティカルケアにおける看護実践、重症心不全患者の意思決定支援における看護師の役割について継続的に研究を続けています。重症患者・家族への医療チームでの意思決定支援の在り方など、本研究の成果が活かされることを目標にしています。

研究者総覧（稲垣 範子）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001287_ja.html

